

教 育 研 究 業 績

氏名 小川 緑

学位：博士（心理学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド			
心理学	実験心理学、味覚、嗅覚、感覚過敏、ニオイの好ましさ			
主要担当授業科目	心理学統計法、心理データ処理、心理学実験、心理学研究法 社会調査演習、社会調査実習			
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事項	年月日	概要		
1 教育方法の実践例 (1) 心理学実験の講義	令和2年4月～現在	目白大学心理カウンセリング学科において、心理学実験の精神物理学的測定法の単元について担当し、ミュラーリヤー錯視に関する実験の実習を行った。精神物理学的測定法の主な手法の解説とともに、心理学分野における論文の書き方について指導した。		
2 作成した教科書、教材 (1) 知覚・認知心理学：「心」の仕組みの基礎を理解する	令和3年5月	第4章（味覚・嗅覚—味・ニオイの知覚の仕組みとその特徴，pp. 69-83）を担当し、嗅覚と味覚における知覚の仕組みや「味」、「ニオイ」の学習による嗜好形成について概説した。また、嗅覚と味覚の感覚間相互作用や両感覚における障害について基本的な知見を紹介した。（共著：綾部早穂・小川緑）		
3 教育上の能力に関する大学等の評価 (1) 目白大学における学生による授業評価（心理学概論）	令和2年1月 令和3年1月 令和4年1月	各年度の授業評価アンケートにおいて、多くの学生から、身近な事例や映像などをまじえての説明があり、わかりやすく、心理学についてより興味が湧いたなどの評価を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項				
5 その他		特記事項なし		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項	年月日	概要		
1 資格、免許		特記事項なし		
2 特許等		特記事項なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし		
4 その他		特記事項なし		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 基礎心理学ハンドブック	共著	平成24年	朝倉書店	和田有史・小川緑(著) 2.5章 味覚刺激 2.5.1節 味覚刺激と提示方法, pp. 114-117 味覚刺激の作成方法や味覚刺激の提示方法といった味覚に関わる実験を行う上で必要な基本的知識についてまとめた。また、合わせて味覚刺激を用いて実験を行う上での注意点についても言及した。
2 においセンシングと分析とその可視化、数値化	単著	令和2年10月	エヌ・ティ・エス	小川緑 第1章6 節嗅覚の心理特性と他感覚との相互作用 pp. 46-54 嗅覚における知覚の特徴である知覚の不安定さについて、知覚の不安定さを示す研究を紹介しつつ、嗅覚の心理特性について概説した。また、知

<p>3 知覚・認知心理学:「心」の仕組みの基礎を理解する</p> <p>4 味以外のおいしさの科学</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>令和3年5月</p> <p>令和4年11月</p>	<p>ミネルヴァ書房</p> <p>エヌ・ティ・エス</p>	<p>覚が不安定な嗅覚が他の感覚から受ける影響、もしくは他の感覚に与える影響について、他感覚との相互作用を扱った研究を交えながら、知覚の不安定さの要因や相互作用の生起のメカニズムについて考察した。</p> <p>綾部早穂・小川緑 第4章 味覚・嗅覚—味・ニオイの知覚の仕組みとその特徴, pp. 69-83 嗅覚と味覚における知覚の仕組みや「味」、「ニオイ」の学習による嗜好形成について概説した。また、嗅覚と味覚の感覚間相互作用や両感覚における障害について基本的な知見を紹介した。</p> <p>小川緑・綾部早穂 コップの手触りが飲料の味や印象に与える影響 飲料を飲む際のコップの手触りが飲料の味質やおいしさ、やわらかさ、かたさといった印象に与える影響について、自身が行った研究を紹介した。</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1 Effect of visual aids and individual differences of cognitive traits in judgments on food safety</p> <p>2 Variation in risk judgment on radiation contamination of food: Thinking trait and profession</p> <p>3 連続的に嗅ぐニオイに対して知覚される強度の変化</p> <p>4 Fear reduces perceived sweetness: Changes in the perception of taste due to emotional state</p> <p>5 A new systematic collection and classification of odour words by using a product review dataset</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成27年5月</p> <p>平成27年7月</p> <p>令和1年7月</p> <p>令和3年1月</p> <p>令和5年10月</p>	<p>Food Policy, 55, 33-40</p> <p>Food Quality and Preference, 46, 119-125</p> <p>におい・かおり環境学会誌, 50, 292-295</p> <p>SAGE Open, Vol. 11, pp. 1-7</p> <p>PLoS ONE, 18(8),e0289368.</p>	<p>Honda, H., <u>Ogawa, M.</u>, Murakoshi, T., Masuda, T., Utsumi, K., Park, S., Kimura, A., Nei, D., & Wada, Y. 農薬汚染された食品に対するリスク判断の際に、どのような視覚的情報が正しい判断のために効果的か検討している。さらに、視覚的情報の効果が個人の思考傾向(直感的か熟慮的思考か、数学的思考が可能か否か)により異なるのかを検討した。結果として、個人の思考傾向に関わらず、イラスト(Visual Aids)のような視覚的情報が食品に対するリスク判断における正しい判断を促すことが示された。</p> <p>Honda, H., <u>Ogawa, M.</u>, Murakoshi, T., Masuda, T., Utsumi, K., Nei, D., & Wada, Y. 放射能汚染を受けた食品に対するリスク判断の正確性が思考傾向や放射能への専門的知識の有無で異なるかを検討した。放射能の専門的知識を持つと想定された実験参加者(放射線技師などの専門家)では、放射能汚染に対する回避反応をあまり示さないことがわかった。</p> <p>小川緑・綾部早穂 実験参加者自身の吸気に合わせて、同一のニオイを40回提示し、知覚強度変化を検討した。先行研究において、快(不快)とされたニオイ各1種類ずつを選定し、快不快の影響も合わせて検討したが、知覚強度変化の報告頻度に違いはみられなかった。また、内観報告に基づくと、多くの実験参加者が快、不快なニオイともに提示終了までニオイを感じており、知覚強度変化の様相もニオイ間で大きな違いはみられなかった。</p> <p>Naoya Zushi, Midori Ogawa, & Saho Ayabe-Kanamura 感情状態の違いが味質の知覚に与える影響を検討した。コメディ、ホラー、ドキュメンタリーの異なる動画を見せ、実験参加者の感情状態を操作し、感情状態と飲料の味質を感じる強さや飲料の摂取量について比較した。ホラー動画を見て、不安感情が喚起された実験参加者は、他の動画を見た実験参加者より、甘味を弱く感じる事がわかり、感情状態により味質の感じ方が異なる事が示された。</p> <p>Naoya Zushi, <u>Genki Takeuchi, Midori Ogawa,</u>Naomi Gotow,Hideki Kakeya,Tatsu Koabayakawa, & Saho Ayabe-Kanamura 日常的に経験するニオイは所属文化により異なるとされており、日本人を対象とした嗅覚検査を実施する場合、日本人の環境に適した嗅覚刺激を使用する必要がある。本研究では、食品と日用品を含む商品レビューの大規模なデータセットを用いて、日本人が日常生活で経験する匂いを収集し、分類した。</p>

4. Liking for odor mixture is effected by pre-exposure to its component. The 16th International Symposium on Olfaction and Taste.	共著	平成 24 年 6 月	(金沢市) XVI International Symposium on Olfaction and Taste, Stockholm Waterfront Congress Centre (Stockholm, Sweden)	への接触意図に関わらず、接触によるニオイの好ましさに違いはみられなかった。 <u>Ogawa, M. & Ayabe-Kanamura, S.</u> 混合臭を構成する複数のニオイのうち 1 種類に接触することで、混合臭の好ましさが変化するかを検討した。ニオイの弁別課題を介してニオイへの接触を行った。接触による、接触したニオイを含む混合臭の好ましきの変化はみられなかった。
5.ニオイをコミュニケーションするために有効な方法の検討	共著	平成 24 年 6 月	日本認知心理学会第 10 回大会, 岡山大学	綾部早穂・上野安耶・ <u>小川緑</u> ・中野詩織 ニオイの特徴を伝達しその感覚を共有する場面でのコミュニケーションにおいて、どのような言語的表現が有効であるのかを探った。ニオイの特徴を具体的に自由に表現した場合でも、オノマトペのみを用いるなど表現を制限した場合でもニオイの感覚的特徴を共有することは難しかった。ニオイの表現は、個々人が経験してきたニオイの種類に依存することが多く、嗅覚経験の共有は困難であることが示された。
6. 混合臭の構成要素への反復接触は混合臭の好ましさに影響するのか?	共著	平成 24 年 9 月	日本心理学会第 76 回大会, 専修大学	<u>小川緑</u> ・綾部早穂 混合臭を構成する複数のニオイのうち 1 種類(構成要素)への接触が混合臭の好ましさに影響するかを検討した。接触対象の嗅覚表象の形成を容易するために、接触時にニオイの名前を提示した。構成要素への接触なし群や接触時にニオイの名前が非提示だった群よりも、名前提示があった群の方が混合臭を好ましくないと評価しており、接触時に与えられたニオイに関する言語情報を与えることで、構成要素への接触が混合臭の好ましさに影響する可能性が示された。
7. Odor-induced enhancement of taste: Focusing on sensitivity for saltiness	共著	平成 24 年 10 月	日本味と匂い学会第 46 回大会, 大阪大学	<u>Ogawa, M., Wada, Y. & Ayabe-Kanamura, S.</u> 同じ濃度の塩味溶液に対する塩味強度評価をもとに評価者を群分けし、ニオイによる味覚強度の促進・抑制効果に違いがみられるか検討した。ニオイによる味覚強度の促進効果の生起には、ニオイと味の印象一致の程度や味覚感度が影響することが示された。
8. 食品中の放射性物質に対する消費者態度に関する調査	共著	平成 25 年 9 月	日本心理学会第 77 回大会, 札幌コンベンションセンター(札幌市)	木村敦・ <u>小川緑</u> ・村越琢磨・和田有史 食品中の放射性物質に関する効果的なりすくコミュニケーションを行うための第一段階として、食品中の放射性物質に対する消費者の態度や属性について類型化を行うことを目的とした。その結果、以下の 4 つ分類された。1: 放射性物質に対して不安の強い群, 2: 放射性物質に対して関心が強く、国の規制制度を理解し、安全性を認知している群, 3: 放射性物質に対して関心が強く、国の規制基準よりも高い基準での規制を求める群, 4: 放射線に対する関心は低く、放射線の問題に対して楽観的な群。
9. 表示のわかりやすさと認知特性の関係性を推測する (発表賞受賞)	共著	平成 25 年 11 月	日本官能評価学会第 18 回大会, 東京農業大学	和田有史・ <u>小川緑</u> ・村越琢磨・増田知尋・本田秀仁 農薬汚染された食品に対するリスク判断の際に、どのような視覚的情報が正しい判断のために効果的か検討した。さらに、視覚的情報の効果が個人の思考傾向により異なるのかも合わせて検討した。個人の思考傾向に関わらず、イラスト (Visual Aids) のような視覚的情報が食品に対するリスク判断における正しい判断を促すことが示された。
10. ニオイへの反復接触による好ま	共著	平成 25 年 12	日本基礎心理学	<u>小川緑</u> ・綾部早穂

しきの上昇に及ぼすラベルの影響		月	会第 32 回大会, 金沢市文化ホール (金沢市)	ニオイに反復接触する際に、ニオイの言語情報 (ラベル) が提示される場合には一定したニオイ質を捉えやすくなり、接触したニオイに対する好ましさが上昇するのかを検討した。ラベルありでニオイへ接触した群の方が、ラベル無で接触した群よりも接触したニオイを好ましいと評価した。嗅覚における接触による好ましさの上昇には、接触時に接触対象のニオイの言語情報が重要であることが示された。
11. 飲料に及ぼすコップの手触りの影響	共著	平成 26 年 9 月	日本心理学会第 78 回大会, 同志社大学	小川緑・中野詩織・若生遼・綾部早穂 飲料容器の表面の手触りに着目し、表面の材質の違いにより生じる手触りの違いが、飲料の味質や印象 (飲みやすさ、かたさなど) に与える影響を検討した。飲料の塩味評価において、塩味と印象が一致する手触りであった場合に飲料の塩味が強く評価された。また、飲料容器の表面が柔らかい印象の手触りであった場合には、飲料を柔らかい印象があると評価することが確認され、手触りから連想される味質や印象が、強く評価されることが示された。
12. Do impressions of beverages change by the surface textures of cups?	共著	平成 26 年 10 月	日本味と匂い学会第 48 回大会, 清水文化会館 (清水市)	Ogawa, M., Nakano, S., & Ayabe-Kanamura, S. 飲料を味わうときに感じる味に影響を及ぼす要因として飲料容器表面の材質に着目し、材質の違いにより飲料の味質や印象が変化するかを検討した。手触りの異なるコップと特徴が異なる飲料 3 種類を組合せて提示し、各味質の強度や実やわらかさなどの印象評定を求めた。コップに触れない場合よりもコップ表面がツルツルとした手触りであった場合に塩味が増強され、やわらかい印象の手触りによって味の印象がぼんやりとしてやわらかいと評定された。手触りの違いが味質や飲料の印象に影響する可能性が示された。
13. ニオイへの反復接触による好ましさの上昇に及ぼすラベルの影響 2	共著	平成 26 年 12 月	日本基礎心理学会第 33 回大会, 首都大学東京	小川緑・綾部早穂 先行研究 (小川・綾部, 2013) において、接触によるニオイの好ましさの上昇には、接触時に接触対象のニオイの言語情報が重要であることが示された。この点について、本研究では言語情報の提示の有無を参加者内要因で再検討した。その結果、接触時に提示した言語情報とニオイの質が一致し、ニオイの質を正確に捉えられていたと考えられる実験参加者でのみ、接触により好ましさが上昇する様相が伺えた。ニオイへの反復接触による好ましさ上昇において、単純なラベル提示だけでなく正確なニオイ質の知覚の重要性が示唆された。
14. ニオイへの接触がニオイの快不快度に与える影響 - ニオイの発生源の定位課題における探索的接触の影響 -	共著	平成 27 年 9 月	日本心理学会第 79 回大会, 名古屋国際会議場 (名古屋市)	小川緑・綾部早穂 探索対象となるニオイの嗅覚表象を保持しつつ、周囲を嗅ぎまわるようなニオイへの探索的な接触が、ニオイの好ましさを与える影響を検討した。その結果、定位課題を半数超正答した実験参加者でのみ、接触した (探索対象の) ニオイの方が非接触のニオイよりも快であると評価された。ニオイの発生源定位のために、探索対象のニオイを繰り返し嗅ぎ、比較的長い時間ニオイへ接触したことがニオイの快さを上昇させたと考えられた。しかし、課題遂行の達成感がニオイの好ましさに影響した可能性もあげられた。
15. The influence of repeated exposure to an odor that belongs to the same category as the exposed	共著	平成 27 年 9 月	日本味と匂い学会第 49 回大会, じゅうろくプラ	Ogawa, M. & Ayabe-Kanamura, S. 文字列を使用した先行研究により、たとえ非接触であっても、接触対象と同じ「カテゴリ」に属す

odor				ザ (岐阜市)	る場合には好ましが上昇することが示されており、本研究では、嗅覚刺激を使用した場合、同様のことが確認されるのかを検討した。ジャスミンティのニオイを接触対象、これと同じカテゴリの非接触対象として、接触対象と銘柄の異なるジャスミンティ、異カテゴリとしてフレーバーティを使用し、接触後の各刺激の好ましさを比較した。いずれのカテゴリの嗅覚刺激間の好ましさに差はなく、嗅覚においては先行研究は支持されなかった。
16. The effect of intentionally and unintentionally exposure to an odor	共著	平成 28 年 7 月	The 31st International Congress of Psychology, パシフィコ横浜 (横浜市)		<u>Ogawa, M. & Ayabe-Kanamura, S.</u> 本研究ではニオイを意図的に嗅ぐ場合 (意図的接触群) と意図せずニオイを嗅ぐ場合 (無意図的接触群) における、ニオイへの接触が好ましさに与える影響を検討した。 結果として、意図的接触群の方が全体的にニオイを低く評価する傾向がみられたが、どちらの群においても接触により好ましさは変化しなかった。意図的に繰り返しニオイを嗅ぐことで、ニオイを嗅ぐ行為自体に飽きが生じ、これがニオイの評価全体に影響した可能性があげられた。
17. 繰り返し嗅いだニオイに対して知覚される強度の変化	共著	平成 28 年 10 月	日本基礎心理学会第 35 回大会, 東京女子大学		<u>小川緑・綾部早穂</u> 本研究では実験参加者自身の吸気に合わせて、同一のニオイを 40 回繰り返し提示し、ニオイの強度が変化した時に報告するように求め、ニオイを繰り返し嗅いだ際の強度変化を探索的に検討した。強度変化の頻度や変化の様相にニオイの快不快の程度の違いによる影響はみられなかった。また、ニオイを嗅いでいる間の心拍や呼吸の様子を計測し、不快臭において嗅ぎ回数の増加とともに呼吸が深くなることを確認した。
18. Exposure to an odor by odor searching task affect odor impression	共著	平成 29 年 9 月	日本味と匂学会第 51 回大会, 神戸国際会議場 (神戸市)		<u>Ogawa, M., Niitsuma, R. & Ayabe-Kanamura, S.</u> 実験参加者の前面 4 か所 (1 か所は特定のニオイ (ターゲット), 3 か所はターゲット以外の全て同じニオイ (非ターゲット)) にニオイを配置し、ターゲットの探索課題を介してニオイへの接触を行い、接触によるニオイの好ましさの変化について検討した。課題開始前後の評価において、ターゲットの方が、好ましいと評価されたが、接触による好ましさの変化は確認できなかった。
19. 繰り返し嗅いだニオイに対して知覚される強度の変化 2	共著	平成 29 年 12 月	日本基礎心理学会第 36 回大会, 立命館大学		<u>小川緑・綾部早穂</u> 同一のニオイを 40 回繰り返し提示しニオイを嗅ぐごとに強度の変化 (強くなった, 弱くなった, 変化なし) の報告を求め、強度変化の内容と連続提示前後の強度評価の関連を検討した。連続提示中の強度変化は一般的に快, 不快なニオイのどちらを提示した場合でも、緩やかに減衰, または大きく減衰の 2 パターンがみられた。快なニオイでのみ連続提示前と比較して提示後に有意な強度低下がみられたが、変化パターンとの関連はみられなかった。
20. ニオイへの接触時の注意の促進・抑制がニオイの親近性に与える影響	共著	平成 30 年 11 月	日本基礎心理学会第 37 回大会, 専修大学		<u>小川緑・綾部早穂</u> ニオイの弁別課題を用いて特定のニオイ (ターゲット) への注意を促し、後のそのニオイの好ましさを検討した。全参加者のデータでは、ターゲット, 非ターゲットのどちらのニオイでも課題前後の好ましさに変化はなかった。明確な嗅覚表象が形成できたと考えられる全正答者のみの好ましさを確認したところ、非ターゲットで課題後に低下がみられた (実験 1)。しかし、課題前にター

<p>21. ニオイへの接触時の注意の促進・抑制がニオイの好ましさに与える影響</p>	<p>共著</p>	<p>令和1年9月</p>	<p>日本基礎心理学会38回大会, 神戸大学</p>	<p>ゲットの学習成立を確認するテストを加え、ニオイの種類を変えて再検討したが(実験2), 実験1の結果を追認できなかった。</p> <p>小川緑・綾部早穂 ニオイへの注意の促進, 抑制がニオイの好ましさに与える影響を検討した。ニオイの探索課題を課すことで, 特定のニオイへの注意配分量を操作した。結果として, ニオイへの注意の促進, 抑制とニオイの好ましさに関連はみられなかった。また, ターゲットへの注意がより促進されていたと想定される探索課題の全正答者を対象に分析した場合でも, ニオイへの注意促進による好ましさに変容は確認できなかった。</p>
<p>22. 嗅知覚の一貫性 —形容詞選択を指標とした検討—</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年10月</p>	<p>日本味と匂学会第54回大会, オンライン開催</p>	<p>小川緑・綾部早穂 ニオイに対して量的評価は行わず, ニオイにあてはまる形容詞の選択を2回繰り返し, 選択される形容詞がどの程度一貫するのかが検討した。具体的な物体は想起されにくい, 刺激間の弁別が比較的容易な香水を嗅覚刺激として用い, 嗅覚刺激を嗅ぎ, 48の形容詞からあてはまるものを選択させた。これを別日に2回繰り返し, 2回の間での選択される形容詞に変化がみられるかを検討した。ニオイに対して形容詞があてはまるか否かの判断を行う場合では, 比較的安定した判断がされることがわかった。</p>
<p>23. 反復接触時の刺激処理の違いが接触後のニオイの好ましさに与える影響</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年11月</p>	<p>日本基礎心理学会第39回大会, オンライン開催</p>	<p>小川緑・綾部早穂 反復接触によるニオイの好ましさに変化において, 反復接触時に感覚記憶に基づく知覚処理(ボトムアップ処理)が促進された場合と, 意味記憶の活性化が促進された場合で違いがみられるかどうかを検討した。ボトムアップ処理を行ったときのみ, 快臭の好ましさに低下, 不快臭の好ましさに上昇(情動馴化)が確認された。意味記憶の活性化が促された場合には, 快臭のみで情動馴化がみられた。反復接触時の刺激処理の違いが, 反復接触の効果に影響している可能性が示された。</p>
<p>24. ニオイの強さ/意味判断のくり返しがニオイへの情動反応に与える影響(発表賞受賞)</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年12月</p>	<p>においかおり環境学会第33回大会, オンライン開催</p>	<p>小川緑・綾部早穂 くり返し嗅ぎによるニオイへの情動反応の変化において, ニオイをくり返し嗅ぐ際に, ニオイの強さに注目させた場合と, どのようなニオイかといったニオイの意味に注目させた場合で違いがみられるかどうかを検討した。ニオイの強さに注目させた場合, 明確に快, 不快なニオイにおいて情動馴化がみられたが, ニオイの意味記憶を活性化させた場合で, 特に不快臭を嗅いだ場合には, 情動馴化が確認されなかった。</p>
<p>25. 甘味・苦味の知覚が他者への印象評定に及ぼす影響</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年9月</p>	<p>日本味と匂学会第55回大会, 九州大学(ハイブリッド開催)</p>	<p>小川緑・函師直弥・綾部早穂 甘味や苦味の知覚が共食場面における他者への印象に与える影響を検討した。甘さ(または苦さ)を知覚することで, 快さの情動や他者への共感性が変化し, この変化が他者の印象に反映されると推測した。甘さがあるコーヒーを飲んだ実験参加者は, 動画の女性の印象評定の, 親しみを感じる, 気が合いそうである, 温かみを感じる評価をしたが, 共感性については, 味の知覚との関連はみられず, 共感性と印象評定の関連もみられなかった。</p>
<p>26. 反復接触時の刺激処理の違いが接触後のニオイの好ましさに与える影響- 飽きの影響の検討 -</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年12月</p>	<p>日本基礎心理学会第40回大会, オンライン開催</p>	<p>小川緑・綾部早穂 接触時に感覚記憶に基づく処理, 意味記憶に基づく処理のいずれを行った場合でも, 好ましいと評価されたニオイで好ましさに低下(情動馴化)が</p>

27. ニオイへの日常的な反復接触がニオイの好ましさに与える影響	共著	令和4年8月	においかおり環境学会第34回大会, 大同大学(ハイブリッド開催)	確認された。接触回数が40回と多く、飽きが生じたために、好ましさが低下した可能性があった。そこで、本研究では接触回数を10回に減らして同様の実験を行った。実験の結果、先行研究の意味記憶に基づく処理を行った場合にみられた好ましさの低下は飽きによるものと考えられた。 <u>小川緑・綾部早穂</u> ニオイへの日常的な反復接触が好ましさに与える影響を検した。ニオイとブロックや図形との印象一致度評価を1日1回1週間、もしくは1ヶ月毎日行うことで、ニオイへの反復接触とした。日常的な反復接触を行ったが、ニオイの好ましさに変化はみられなかった。
28. The effect of mental fatigue on umami perception.	共著	令和4年8月	日本味と匂学会第56回大会, 仙台国際センター	<u>小川緑・図師直弥・綾部早穂</u> 飲食物を接触した際に「沁みる」という表現が使用されることがあるが、どのような意味で「沁みる」という表現が使用されているのか調査を行った。心的、身体的に疲労した際に飲食物を摂取した際に使用され、ネガティブな状態から回復するような意味で使用されていることがわかった。
29. ニオイの弁別能力と言語課題成績の関連	共著	令和4年12月	日本基礎心理学会第41回大会, 千葉大学西千葉キャンパス	<u>小川緑・綾部早穂</u> 単語想起の流暢性と語彙力とニオイの弁別(ニオイを嗅ぎ分ける)課題成績の関連を検討した。また、弁別課題時に言語リハーサルを妨害することで、弁別課題成績が低下するののかも併せて検討した。言語リハーサルの妨害がなかった場合、弁別課題成績と言語課題成績に正の相関がみられたが、一部の被験者においては、言語課題成績が高いほど、ニオイの弁別ができない様相も確認された。
30. かわいさが喚起する感情についての探索的研究	共著	令和5年7月	日本認知心理学会第21回大会, 東京都立大学南大沢キャンパス	北條珠緒・ <u>小川緑</u> 、PERUSQUÍA-HERNÁNDEZ Monica・綾部早穂 かわいさが喚起する感情の特徴の探索的な検討を行った。一般的にかわいいとされる対象(ベビースキーマの有または無)と個人的にかわいいとする対象を提示し、その際の情動状態や表情筋の動きを提示した対照間で比較した。ベビースキーマのある対象、個人的にかわいいとする対象に対しては、落ち着き、笑顔が生じ、ベビースキーマなしと異なる感情や表情を喚起することが示された。
31. ニオイの知覚特徴と個人特性の関連の探索的検討	共著	令和5年9月	日本心理学会第87回大会, 神戸国際会議場	<u>小川緑・綾部早穂</u> ニオイの知覚特徴(検知閾値と知覚強度)と不安や刺激への感受性の関連を検討した。ニオイの快さや刺激濃度に関係なく、不安の得点が高いほど強度を強く評価する様相がみられたが、HSPについては、快いニオイにおいてのみ、HSPの程度が高いほどニオイを強く感じる様相が確認された。
32. A study of the "shimiru" sensation induced by beverages consumed during physical and mental fatigue.	共著	令和5年9月	日本味と匂学会第57回大会, 東京工業大学大岡山キャンパス	<u>小川緑・図師直弥・綾部早穂</u> 心身の疲労後に摂取した飲料に対する沁みる感覚について実験的に検討を行った。身心疲労の前後で、暖かいもしくは冷たい飲料を飲み、沁みる感覚(癒される、生き返るような感覚)の時間的変化を計測し、比較した。課題後に摂取した飲料に対してより沁みる感覚が生じることが示された。心的疲労後に温かい飲料を摂取した場合には、沁みる感覚は長く持続し、身体的疲労後に冷たい飲料を摂取した場合には、長くは持続しなかった。
33. ニオイの同定能力と性格特性の関連の検討	共著	令和5年12月	日本基礎心理学会第42回大会, 豊橋技術大学	<u>小川緑・綾部早穂</u> ニオイの同定能力と個人特性の関連を検討した。日常的に嗅ぐ頻度が高い9種類のニオイについて、何のニオイか自由記述式で回答を求めた。また、新奇な体験などを求める傾向を示す刺激希求などの個人特性を計測し、自由記述の回答との関連を検討した。刺激希求性が高いほど、好ましく

(寄稿) 1 「味」に及ぼす、ニオイや手触りの影響 —知覚の個人差の観点から—	共著	平成27年8月	ソフトドリンク 技術資料 176, 77-91	ないニオイから名詞を想起するが、外向性が高いほど名詞が想起されないことが示された。 小川緑・綾部早穂 嗅覚や触覚が味溶液の各味質の強さや印象(まろやか、つんつんするなど)に与える影響について検討した著者らの研究を紹介した。
	単著	令和5年5月	科学(岩波書店), 93(5),448-459	
2 人のニオイの好みはどのように形成されるのか				小川緑 特集「匂いとフェロモンの科学」のうち、人においてニオイの嗜好がどのように形成されるのか、先行研究や自身の研究に基づき概説した。

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。